



グローバルレスポンスイブルビジネス

－ コミュニティ －

様々なコミュニティと協働し、地域社会の発展につながる社会貢献活動を推進します。また、事業活動との相乗効果を重視し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供するとともに、社会への貢献を通じて、社員自らのスキル開発や富士通で働くことへの誇りを向上させていきます。

社会貢献活動

目標

2030年までに達成する長期目標

地域社会の発展に向けて、様々なコミュニティと協働しながら社会貢献活動を推進する。
また、事業活動との相乗効果を重視し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供する。
社会への貢献を通じて、社員自らのスキル開発や富士通で働くことへの誇りを向上させる。

↓ [社会貢献活動の考え方](#) ↓ [2018年度の実績](#)

社会貢献活動の考え方

富士通グループは、豊かで夢のある未来の実現に向けて、ICTを活用してお客様・地域社会・世界の人々と新たな価値や知恵を共創し、地球と社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

社会貢献活動においては、「人を大切にする社会貢献活動」「科学技術の発展に資する社会貢献活動」を優先事項として、多種多様なステークホルダーと連携し、グループ全社員が積極的に参加して活動を展開しています。

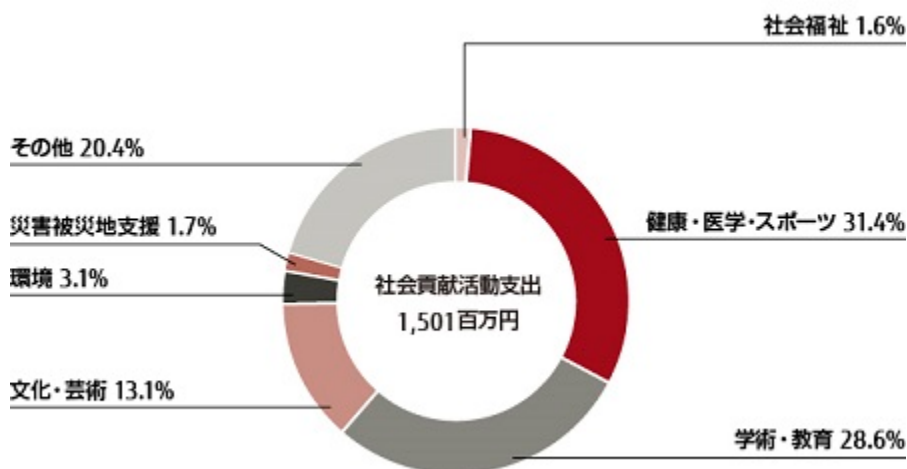
なお、活動の活性化とベストプラクティスの共有を目的に、実施記録を社内システム上で蓄積・公開し、社内表彰を実施しています。

2018年度の実績

社会貢献活動に関わる支出

富士通が2018年度に社会貢献活動に関わる費用として支出した金額は、以下のとおりです。

社会貢献活動支出グラフ



社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備しています。また、各事業所が所属する地域コミュニティの発展に貢献するため、地域の特性に沿った各種活動プログラムを展開しています。

富士通では、2018年度、60名が積立休暇を取得し（延べ177日）、ボランティア活動を行いました。

ボランティア活動支援制度

社員のボランティア活動を支援するため、以下の制度を設けています。

- ・ 青年海外協力隊／シニア海外ボランティア参加のための休職制度：最高3年間
- ・ 積立休暇：年5日支給とし、最高20日まで積立可（ボランティアを含む特定の目的に利用）

人を大切にする社会貢献活動

目標

2030年までに達成する長期目標

地域社会の発展に向けて、様々なコミュニティと協働しながら社会貢献活動を推進する。
また、事業活動との相乗効果を重視し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供する。
社会への貢献を通じて、社員自らのスキル開発や富士通で働くことへの誇りを向上させる。

感覚過敏の子供たちのサッカー観戦

富士通では、「心のバリアフリー」を推進する一環として、発達障がいの子供たちとその家族を対象にした「川崎フロンターレ対大分トリニータ戦」観戦交流イベントを開催しました。このイベントは、富士通、JTB、ANA の3社と川崎市、Jリーグ、川崎フロンターレとの連携により実現しました。

人混みや大音量の歓声に感覚過敏の症状を抱える子供たちが、センサリールーム(注1)で安心して試合を観戦したほか、翌日には川崎フロンターレのコーチによる「サッカー教室」に参加し、スポーツの楽しさを体感しました。

富士通は、全体の企画運営に関わるとともに、ICTを活用した子供たちの日記の作成支援や、サッカー観戦の観客による発達障がいのある子供の世界の疑似体験会など、「心のバリアフリー」に向けた取り組みを行いました。

富士通では、今後もJリーグや、他のスポーツ競技関係機関、自治体などと連携し、スポーツを通じた「心のバリアフリー」を推進する活動を進めていきます。



センサリールームでの観戦風景



日記をつける子供たち



競技場外での体験風景
(写真提供：Jリーグ)

注1 発達障害による感覚過敏により、大観衆の人混みや大音量の歓声への対応に悩みを抱える子供たちでも安心して観戦できる特別エリア。国内でのスポーツの試合におけるセンサリールームでの観戦は初の事例。

東京都「ゼロエミッション東京」の取り組みに協力 CO₂削減クレジットを寄付

富士通グループは、中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision(注2)」の中で、「自らのゼロエミッションの実現」と「脱炭素社会に向けた社会への貢献」を掲げています。そのため、東京都が目指す「ゼロエミッション東京(注3)」の趣旨に賛同し、その活動に協力するため、東京都キャップ&トレード制度(注4)に基づくCO₂排出削減クレジット59,820[t-CO₂]を2019年8月8日に東京都へ寄付しました。

富士通グループが所有する東京都キャップ&トレード制度の対象拠点は、富士通株式会社の「富士通ソリューションスクエア」(東京都大田区)、富士通セミコンダクター株式会社の「あきる野テクノロジーセンター」(東京都あきる野市)の2

拠点があり、制度開始からこれまでに獲得したクレジットの全てを東京都に寄付しました。これらのクレジットは、空調や照明の運用改善、動力設備（高効率エレベータなど）の更新、事業構造変化などにより、削減義務量を超過することで得られたものです。

富士通グループは、今後も継続して温室効果ガス排出量の削減に努め、東京都の取り組みおよび持続可能な社会の実現に貢献していきます。



富士通ソリューションスクエア（東京都大田区）



高効率エレベータ（富士通ソリューションスクエア）

注2 富士通グループ中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」

<https://www.fujitsu.com/jp/microsite/fujitsu-climate-and-energy-vision/>

注3 東京都「ゼロエミッション東京」の取組

http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy_others/zeroemission_tokyo/index.html

クレジット寄付によるゼロエミッション東京の取組

http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/climate/large_scale/mukouka/index.html

注4 東京都キャップ&トレード制度

http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/climate/large_scale/index.html

すべての子供に教育の機会を

インドでの取り組み

富士通コンサルティング・インド（FCI）は、5年に渡り、非営利団体 Teach for India（TFI）とのパートナーシップを行っています。Teach for India は、優れた大卒者や社会人を、経営資源の乏しい公立学校の専任教師として配置している団体です。

毎年、FCI は TFI フェローを支援しています。その目的は、インドにおける教育の不平等を解消し、適切なスキル・セットと現代教育を実現することで、恵まれない生徒たちが私立学校の同等の教育機会を確保することです。

2018 年には、FCI は 17 人の教師を支援し、プナ、デリー、バンガロールおよびハイデラバードの TFI と連携して、960 人の子供たちを支援してきました。

今後も TFI への支援を継続するとともに、社員の社会活動への参加意識を高め、インドの教育環境改善に貢献していきます。



授業風景

フィリピンでの取り組み

富士通フィリピン・グローバル・デリバリ・センター（GDC）は、設立 25 周年にあたり、Makabata School Foundation, Inc. とパートナーシップを締結しました。Makabata School Foundation, Inc. は、パシグ市にある非営利財団で、貧しい子供たちの中で最も貧しい子供たちを教育することを目的とした教育に焦点を当てています。

当社は、このパートナーシップを「働きがいと安心があり、豊かで夢のある未来を実現する」という富士通の CSR のフレームワークに沿って、ICT 企業としての富士通がめざす姿を実現していくための重要な要素と考えています。

当社は、学校の教室の改修と改装から始まり、すべての生徒の学習能力を向上させる機器（ルータ、プロジェクタスクリーン、プロジェクタ、LED テレビ、図書館のその他の付属品）を寄付しました。

また、2018 年には、Noche Buena Bonanza（学生と教職員とのクリスマスイベント）の一環として、富士通のボランティアの従業員が短期の教育プログラムの提供を行いました。

富士通フィリピン GDC は（株）マカバタ学校財団への継続的な支援を通じ、貧しい子供たちへの教育機会の提供を行っています。



学校の様子

Camp Quality とのパートナーシップ(オーストラリア)

富士通オーストラリアは、がんとともに生きる子供たちとその家族を支援する Camp Quality のチャリティーパートナーとして 2015 年より活動しています。

当社は、Camp Quality が提供しているプログラムやサービスをサポートするために年間 100 ドル以上を寄付しています。また、当社のシニア・マーケティング・マネージャーの Sue Armstrong が同団体の SNW 収益委員会に就任している他、従業員がボランティアスタッフや資金調達イベントに参加する取り組みを行っています。

また、デジタル技術を活用したオンラインボランティアポータル構築を支援しました。これにより、すべてのボランティアが e-Learning とトレーニングを完了したうえで、本格的な活動に参加することができるようになります。

私たちの支援は、2 万 7000 ドルの寄付や現物支援、資金調達など、毎年 10 万ドル以上に相当します。



チャリティーイベントに参加する子供たち

寄付活動

グループ従業員による活動

富士通グループでは、多くの事業所でペットボトルキャップやプリペイドカード、切手、本、CDなどを回収し、それらの収益金をポリオワクチンや緑化の苗木、国際協力への寄付に活用するなど、グループ各社の社員が身近な社会貢献活動に自主的に取り組んでいます。

南アジアでボランティア活動を展開する国際NGO「シャプラニール」(市民による海外協力の会)を支援する活動として、書籍・DVDを回収・売却する「ステナイ生活」を継続的に実施しています。

自然災害による被災への支援

富士通グループは、自然災害による被害の復興に役立てていただくため、義捐金寄付などの支援を行っています。2018年度は7月に「西日本を中心に襲った豪雨」、9月に「平成30年北海道胆振東部地震」による被災地に向け、地方自治体に義捐金を寄付しました。

- 2018年度
 - 「北海道胆振東部地震」被害への支援について
 - 「7月豪雨」被害への支援について
- 2017年度
 - 九州北部の豪雨による被害への支援について
- 2016年度
 - 熊本地震 震災復旧・復興支援に向けてクラウドサービスを提供
 - 熊本地震被害への支援について
- 東日本大震災 復旧・復興支援活動についてはホームページをご覧ください。
<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/recovery/index.html>

スポーツを通じた社会貢献活動

富士通グループでは、スポーツを通じた健全な社会貢献活動を展開しています。陸上競技部、アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」からなる富士通のスポーツ活動は、スポーツを通じて感動を共有し、より豊かな社会の創造と、人々の「心」と「身体」の健康増進に貢献します。

また、その他にスポーツへの協賛やスポーツを通じた心のバリアフリーに向けた取り組みを進めています。

- スポーツへの協賛、スポーツでの貢献活動の詳細は以下のホームページをご覧ください。
<https://sports-topics.jp.fujitsu.com/activity/>
- スポーツを通じた心のバリアフリー活動の詳細は以下のホームページをご覧ください。
<https://sports-topics.jp.fujitsu.com/accessibility/>

文化・協賛活動

富士通の文化・協賛活動についてはホームページをご覧ください。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/index.html>

科学技術の発展に資する社会貢献活動

目標

2030年までに達成する長期目標

地域社会の発展に向けて、様々なコミュニティと協働しながら社会貢献活動を推進する。
また、事業活動との相乗効果を重視し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供する。
社会への貢献を通じて、社員自らのスキル開発や富士通で働くことへの誇りを向上させる。

「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援

富士通は、公益財団法人「数学オリンピック財団」および特定非営利活動法人「情報オリンピック日本委員会」の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック（IMO）への日本代表選手の選抜、派遣を通じて数学的英才の発掘および伸長を図るとともに、国際的視野での数学教育発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。富士通は、同財団の設立にあたって、他2社・1個人とともに基本財産を拠出しました。

一方、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理情報科学分野を支える人材養成に寄与することを目的として2005年に設立され、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピック（IOI）への参加および協力事業を展開しています。富士通は賛助会員として、その運営を支援しています。



第18回情報オリンピック表彰式

がん支援チャリティー団体とのプロボノプロジェクト（英国）

英国を代表するがん支援チャリティー団体である Macmillan との2年間のチャリティーパートナーシップにおいて、富士通はそのコアスキルを活用し、プロボノ共創プロジェクトを通じて、支援を行いました。

富士通は、ボランティアスタッフの時間管理を行うプラットフォームを提供し Macmillan の取り組みを支援しています。このプラットフォームには25,000人以上のユーザーが登録しており、ボランティアとボランティア・マネージャーとの連携に大きな変革をもたらしました。

このプロジェクトは、がん患者とその家族、Macmillan のボランティアやスタッフに力を与える革新的なインパクトをもたらしました。この取り組みは、2019年の Corporate Engagement Awards で銀賞を受賞しました。



Corporate Engagement Awards 受賞の様子

カザン航空研究所の学生コンテストを支援（ロシア）

富士通ロシア・グローバル・デリバリーセンター（GDC）は、カザン航空研究所の学生イニシアティブ「ITEAM Student Project Competition」を支援しています。

富士通の社員がモバイルプログラミング、機械学習、プロジェクト管理、情報セキュリティ、リスク管理などの特別授業を開講し、学生たちのビジネスアイデアを競うコンテストへの出品に向け支援を行いました。これらの多様なコースは生徒のスキルを向上させ、プロトタイプの改良などに寄与しています。コンテストにより制作された製品として、食品配達アプリ、カザン市のツアーアプリ、テレグラムボットなどがあります。

富士通ロシア DGC とカザン航空研究所との良好な関係が、学生にとって、富士通でのインターンシップの参加や富士通への就職の可能性を広げています。



ITEAM Student Project Competition の参加者たち

富士通 JAIMS の運営

富士通 JAIMS は、富士通の提唱により非営利な教育活動を目的に設立された財団法人で、大学院レベルの教育を提供しています。その母体である「JAIRS」は、1972年に日米の架け橋となる人材の育成を目的として、ハワイに設立されました。設立以来、55か国約23,000名の卒業生を輩出しています。

2012年には、アジアとの連携を強化するために「一般財団法人富士通 JAIMS（以降、富士通 JAIMS）」を日本に設立し、「アジア・パシフィック地域において、社会のために新しい価値を創造（イノベーション）できるひとを育み、豊かで夢のある未来創りに貢献する」というミッションを実現していきます。

富士通は、運営資金の拠出に加えて活動を支援する組織を社内に設置し、富士通 JAIMS の活動を全面的にバックアップするだけでなく、富士通の実践知・技術・ノウハウを活動に織り込むことで、富士通 JAIMS と一体となって、学術・教育の振興、国際交流を通じた社会貢献活動を推進しています。



GLIK の参加者たち

- 一般財団法人富士通 JAIMS については以下ホームページをご覧ください。

<http://www.jaims.jp/>

富士通奨学金制度の運営

富士通は、日本の文化・社会・経営手法を深く理解し、将来にわたり日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的に、1985年に「富士通奨学金制度」を創設しました。累計受給者は542名に上っています（2018年4月1日現在）。現在では日本以外のアジア太平洋地域18か国のビジネスパーソンを対象に、富士通JAIMEのGLIKプログラムに参加する機会を提供しています。

富士通は、ビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進を通して、自国や自コミュニティへの貢献を考える人たちに奨学金を授与し、国際地域社会に根付いた教育の提供を通して社会に貢献しています。



富士通奨学金受給者たち

- 富士通奨学金制度（Fujitsu Scholarship）についてはこちらをご覧ください。（英文サイトのみ）
<https://www.fujitsu.com/global/about/csr/activities/community/scholarship/>

「富士通キッズプロジェクト：夢をかたちに」

富士通のミッションはITを軸に新しい価値を創造し続け、お客様の夢を、富士通グループの夢を、そして社員の夢をかたちにする事です。そして、未来を担う大切な宝である子どもたちの、夢をかたちにするお手伝いをするのも、私たちのミッションと考えており、学校の授業内容に関連したコンテンツや、子ども達の調べ学習に活用できるコンテンツを用意しています。

- 「富士通キッズ：夢をかたちに」子ども向けサイトは以下のホームページをご覧ください。
<http://jp.fujitsu.com/about/kids/>

外部団体との協業

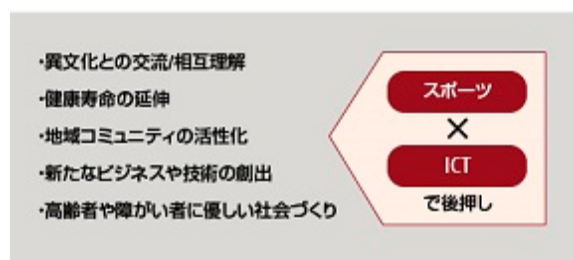
- ↓ [国際スポーツイベントを通じた社会価値創出](#)
- ↓ [持続可能な発展のための世界経済人会議への参画](#)
- ↓ [世界経済フォーラムへの参画](#)

国際スポーツイベントを通じた社会価値創出

日本では、2019年ラグビーワールドカップ、2020年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）、そしてワールドマスターズゲームズ2021年関西と大規模な国際スポーツイベントの連続開催が予定されており、イベント成功に向け、産官学を挙げての取り組みが活発化しています。

富士通は、人を中心としたICTとスポーツを融合させることにより、誰もが幸せに暮らせる豊かな社会に貢献することを目指しています。スポーツが持つ真の力を理解し、富士通がお客様・お取引先や地域住民とともに、スポーツを通じた社会のICT化を押し進め、社会的課題を解決していくことは、日本によりよい未来への「成長」をもたらし、ひいては富士通自身の新たなビジネス創造と企業価値の向上につながると考えているからです。

スポーツを通じた社会課題の解決



「心のバリアフリー」と誰もが暮らしやすい社会づくり

東京2020大会では、10万人の募集が計画されるボランティアの活躍や、パラリンピックを通じた障がい者の社会参加促進が成功の鍵となります。大会を実践の場と捉え、富士通も「企業ボランティア文化の醸成」や「ダイバーシティの推進」に向けた社会貢献活動を強化しています。

高齢者や障がい者が暮らしやすい社会にするためには、施設整備（ハード面）だけではなく、心のバリアを取り除き、社会参加に積極的に協力する「心のバリアフリー」が重要です。

富士通では、様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めるためにコミュニケーションをとり、支え合える「心のバリアフリー」に関する商品開発のほか、社内外での研修や普及に向けた活動など、様々な取り組みを行っています。

また富士通は、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会において、バリアフリー分野の幹事企業として、2020年とその先へ、経済界が一つになってレガシーを作る取り組みを進めています。



自治体と連携した「バリアフリーマップ」の作成支援



相互理解を深める「心のバリアフリー集合研修」

富士通は、2015年2月に東京2020スポンサーシッププログラムの国内最高水準に位置づけられる「東京2020ゴールドパートナー」のデータセンターハードウェアパートナーとなり、東京2020大会成功に向けたサポートを行っています。



富士通のスポーツに関する取り組みは下記 URL をご参照ください。

- 富士通×スポーツ
<https://sports-topics.jp.fujitsu.com/index.html>

持続可能な発展のための世界経済人会議（WBCSD）への参画

WBCSD（The World Business Council for Sustainable Development、持続可能な発展のための世界経済人会議）は、グローバル企業約200社のCEOが率いる団体で、ビジネス活動を通して持続可能な社会をつくることを目的としています。2018年1月より当社会長の山本がWBCSDのVice Chairに就任しました。2018年10月、シンガポールで開催された年次総会では「主導・変革・成功」をテーマに各プログラムにおける活動を議論しました。その中で、富士通は、雇用の未来では効率化だけではなく、人に対する価値が重要性を持つことや、プライバシー・セキュリティ対策の強化など、ビジネスに求められている課題への対応について、テクノロジーの観点から訴求しました。富士通はこれらの活動を通じて、持続可能な発展を目指し、国際社会における様々な課題の解決に取り組んでいます。



会議で発言する当社会長山本

WBCSD ラウンドテーブルの開催

2018年12月東京にて、WBCSDのCEOであるピーター・バッカー氏が来日し、日本企業会員向けにラウンドテーブルを開催しました。ラウンドテーブルでは、社会を取り巻く状況が急速に変化する中で、サステナビリティへの取り組みはグローバル企業にとって成長の機会であると同時に使命であることを共有しました。そして、持続可能な発展を続けていくために、WBCSD加盟企業の間や各国政府とも連携を強化し取り組みをさらに加速させていくことで一致しました。



ラウンドテーブルの様子

- WBCSD
<https://www.wbcsd.org/>

世界経済フォーラムへの参画

世界経済フォーラム（WEF：World Economic Forum）は、経済学者であるクラウス・シュワブ氏により設立された非営利財団で、グローバル・シチズンシップの精神に則り、パブリック・プライベート両セクターの協力を通じて、世界情勢の改善に取り組んでいます。そして、あらゆる主要国際機関や経済界、政界、学界、そして社会におけるリーダーと緊密に連携し、世界・地域・産業のアジェンダを形成しています。

毎年1月には、スイス・ダボスで年次総会（ダボス会議）が行われ、多国籍企業経営者や各国の政治指導者、知識人、ジャーナリストなど3,000名を超えるトップリーダーが一堂に会し、世界が直面する重大な問題について議論しています。（2019年の年次総会テーマ「Globalization 4.0：Shaping a Global Architecture in the Age of the Forth Industrial revolution」）

富士通は2001年より本フォーラムに参加し、経営層から事業部門にわたりダボス会議をはじめとする様々な活動に参画しています。2019年1月の年次総会への参加と併せて、総会開催期間中、ダボス市内に専用会場を開設し、企業トップや有識者を招いて「最先端技術と倫理の関係」「AIの進展に伴う新しい働き方」「セキュリティ、持続可能性等の課題への対処（社会インパクトのもたらし方）」などのグローバルな課題について活発に意見を交わしました。今後これらの議論をもとに、社会課題の解決への貢献の検討を進めていきます。

- 世界経済フォーラム（World Economic Forum）
<https://www.weforum.org/>